

山々がつくる水

私の家は毎日、蛇口をひねればとつてもきれいなおいしい水が出てくる。その水は他の家の水とはちがう。どこよりもおいしい水だ。私は田んぼや山、本当に緑ばかりに囲まれた田舎に住んでいる。そんな私には私の父が生まれる前、それよりもっと昔から続く井戸がある。

その井戸には今も山から流れてくる水がたまっている。しかし、今はそこから直接水をくみ上げているわけではない。たまった水をポンプでくみ上げて蛇口をひねったら出てくる仕組みになっていく。この水は浄水所できれいにしたのでなく、山の土がろ過したものなのでカルキが入っていない。おいしい、と父は言う。実際私はそれを感じたことはないが、いつかわかる日がくるだろう。私にしてみれば蛇口をひねったら水が出て

天理市立福住中学校 二年

宮浦 りん

くることは当たり前だし、それに対して何も思わなかった。しかし、この作文を書くため父に井戸のことを聞いてみると、こんなことを行っていた。

「あんなあ、お父さんの時はお風呂の水でも、お皿洗うときの水でも全て井戸の水やったからすぐ水がなくなってる。だからお父さんの小さいときはもっと水を大切にしていたのなあ。」

そういわれた私は「お父さんの小さいときは」なんて言われると、今の私はそうじゃないみたいじゃなか、と少しムツとした。でも、よく考えてみればそうだ。今まで私は水の大切さなどを考えて水を使ったことがあっただろうか。そんな私が、この作文で「水は大切だ。水は必要だ。」と書いていくだけでいいのかと思えた。だから、それを機に学びたい。

私の知らない他の国では本当に深刻な水不足が問題になっていっているらしい。きれいな水を飲めなくて亡くなっている人も大勢いると知った。私は、自分は幸せなんだと思いき知らされた。今は、使いたいときに使いたい分だけ出てくる水が無駄にしたら、その人たちに失礼だと思った。そんな現実を知ったので、今は水に困ることのない私も、水は本当に無駄にしてはいけないと心から思う。

私は、この作文を書いたからには、水が無駄にしないということを実行していくと決めた。例えば、水を使うときはこまめに止めるかとか、シャワーを出るだけ速く使うとか、それくらいなら私にもできる。こうして考えるといろいろ出てくるが、これくらいのことでも出来ていなかった自分が恥ずかしくなる。でも今回、そのことに気付くいい機会になつてよかった。

この作文を書いて私は、自分が普段どんな水の使い方をしているか見直せた。そして気付かされたことがたくさんあった。水の作文のことを父に相談するまで、家の水が井戸水だということすら知らなかった。私は、山々

がきれいにしてくれたおいしい水を飲んで本当に幸せ者だと思った。たくさん水を恵んでくれる雨に、水をきれいにしてくれる山々に感謝している。

そして、この感謝の気持ちをこれから絶対に水が無駄にはしない、大切にしていきたいことに繋げていきたい。それとともに、私の周りの美しい緑も、ずっと続く古い井戸も私の自慢としてのこしていきたい。私の家の裏にある井戸水は、山々が作ったどこよりも美しく、どこよりもおいしい水だ。

